

社会資本整備審議会道路分科会 平成 28 年度第 1 回中国地方小委員会
《議事要旨・議事録》

1. 日 時

平成 28 年 6 月 7 日（火）13:00～14:30

2. 場 所

中国地方整備局 建政部

3. 出席者

<委員>

⑩ ふじわら あきまさ
藤原 章正 広島大学大学院 国際協力研究科 教授

こいけ あつし
小池 淳司 神戸大学大学院 工学研究科 教授

うちやま せいいち
内山 誠一 中国経済連合会 専務理事

すずき はる な
鈴木 春菜 山口大学大学院 創成科学研究科 准教授

ふくだ きょうこ
福田 京子 地域づくりネットワーク 代表

4. 議 題

(1) 計画段階評価について

山陰道：小浜～田万川（第 1 回）

5. 結論

山陰道「小浜～田万川間」の計画段階評価の手続き及び意見聴取することを了承する。

意見聴取について、地域の方にとっても利用しやすい道路となるように、アンケート項目を検討し、多くの意見を拾い上げる努力をすること。

2 回目以降の意見聴取の方法についても、柔軟に検討すること。

6. 委員からの主な意見

(意見聴取の方法について)

- ・意見聴取について、この道路をうまく使っていくために、「地域課題の認識の共有」「行政が気付かない課題の把握」「利活用等に関するアイデア」の3つの観点で意見をもらった方がよい。
- ・流通業者や観光業者について、実際に利用する人の声を聴取できるように意見聴取方法を検討してもらいたい。
- ・住民アンケートの範囲について、島根県側と山口県側で対象者数に開きがある。バランスについて、問題ないか検討してもらいたい。
- ・広域的な利用者に対しての意見聴取は、優先区間毎で個別に実施しても、必要性に対する回答は変化しないと想定されるため、対象者を住民のみとするなどの検討も必要。
- ・同じ地区で同様なアンケートを繰り返さなくてもすむように、意見聴取のやり方を考えてもらいたい。

(計画段階評価プロセスについて)

- ・比較ルート帯案にあまり差がない区間では、これまでと同じ計画段階評価プロセスに疑問を感じる。
- ・計画策定プロセスにおいて、効率的・効果的に進めるために、もう少し計画を策定する範囲を広く設定しルート帯を検討すべき。
- ・今後の山陰道の計画段階評価については、優先区間5kmにこだわらず、区間を広くして一括で意見聴取を実施し、次のプロセスを簡略化するなど工夫が必要。

(構造について)

- ・これまでに開通した暫定2車線の山陰道等で簡易的な中央分離構造を越えた正面衝突事故が発生しており、安全性に問題があると認識している。今後の委員会において、概略ルート・構造を検討する際には、安全性についても配慮してもらいたい。